

主 題：偽教師たちに惑わされるな④ 彼らをさばかれる主
 聖書箇所：ユダの手紙 11-16節

今日は「ユダの手紙」の11節のところから見ていきます。11節には初めにこのようなことばが記されています。「忌まわしいことです。」(新改訳聖書第2版)と。この感嘆詞は「悲痛、憤懣、可哀そう」という意味です。また、英語の聖書を見ると「彼らに災いあれ」という意味をもった表現が使われています。実は、新改訳聖書第3版には「ああ。」ということばしか記されていません。ですから、第2版では「忌まわしいこと」、第3版では「ああ。」「災い」だと訳されているのです。ユダはこういうことばを使うことによって、彼自身の偽教師たちへののろいを記したのではありません。ユダは、まさに、事実を述べたのです。偽教師たちが教会に入り込んでいて、彼らがどのような状態にあるのか、そのことを告げたのです。

悲しいことに、彼らは神に喜ばれていません。そして、彼らはのろいの道、災いの道を歩んでいるのです。神に逆らい続ける者たち、この偽教師たちだけではありません。神に逆らう者たちに対して、みことばは同じような警告を発しています。エレミヤ書17:5「【主】はこう仰せられる。「人間に信頼し、肉を自分の腕とし、心が【主】から離れる者はのろわれよ。」、箴言3:33「悪者の家には、【主】ののろいがある。正しい人の住まいは、主が祝福される。」、このように記されています。つまり、こういうことです。神に背を向け、主の与えてくださる救いを拒み続けている人たちには祝福はないということです。どんなに彼らが望んでもそこには絶対に祝福はありません。そこにあるのは「のろい」だと言います。偽りの教師たちも、そして、神に背を向けているすべての人たちは、まさに、そのような歩みをしてそのような永遠へと向かっているのです。

パウロも神の真理を曲げて偽りを教える者たち、偽りの教師たちはのろわれて当然の人生を生きているということを教えています。ガラテヤ人への手紙1:8「しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。」と。神の真理に逆らうことを語る者たちはのろわれるべきだと言います。そこには必ず神のさばきがあるからです。そのような生き方、そのような働きを神は喜んでおられないからです。

これまで私たちが見て来たように、教会に入り込んで来たこの偽教師たち、彼らは大変大きなダメージを教会にもたらしていました。偽りの教えをもって人々を惑わしていたのです。そして、ユダは彼らの歩みはまさに神ののろいを受ける者で、神の祝福を得る者ではないことを明らかにするのです。もちろん、後で見ていきますが、そのメッセージの背後には神の愛があることに私たちは気付きます。「あなたがたは間違っている」ということを明らかにするということは、早くその間違いから逃れなさい、その間違いに背を向けて悔い改めて、主のあわれみを求めて出て来るようにというメッセージです。

ユダは、この人たちがいかに間違っているのか、そして、滅びの道を歩んでいるのか、そのことを明らかにするために、旧約の三人の人物を挙げてその説明をしようとしています。この三人の人たちはすべて神に逆らい、そして、さばきを受けた者たちです。彼らは「カイン」「バラム」「コラ」です。この歴史上の人物が、神に逆らったゆえに神からさばきを受けたこと、そのことをもって偽りの教師たちが向かっている永遠を明らかにするのです。一人ずつ見ていきましょう。

☆神に逆らう者たちがさばきを受けること

1. カインの道

11節「ああ。彼らはカインの道を行き、…」、「カインの道」とは何でしょう？一言で言うならそれは「不信仰の道」です。表面的には信仰的でも心はそうではないということです。見た目は霊的ですが心は違うのです。アベルとカインのことは創世記4章に書かれています。4:2に「…アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。」とあります。

1) 主なる神が目を留められたのはささげ物だけではない

兄弟が別々の仕事をしたのです。そして、それぞれが神の前にささげものをもって来ます。神はカインのささげ物には目を留められなかった。でも、アベルのささげ物には目を留められました。4:4、5「:4 アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のものを持って来た。【主】はアベルとそのささげ物とに目を留められた。:5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。」とこのように記されています。でも、神が目を留められたのは果たしてささげ物だけだったのでしょうか？【主】はアベルとそのささげ物とに目を留められた。」と書かれています。このみことばが私たちに教えることは、神が目を留められたのはささげ物だけではなかったということです。「アベルと」

とは「アベル自身」ということです。同時に、5節に「カインとそのささげ物には目を留められなかった。」「カインと」とあり、神が目を留められなかったのはカインのささげ物だけではなく、カイン自身に目を留められなかったのです。ですから、この二箇所によって、ささげ物が悪かったのではなく、ささげた人に問題があったことを教えています。神がアベルのささげ物を受け入れたのは、アベルの心が神の前に正しいことをご覧になったからです。ということは、神はカインの心が正しくないことをご存じだったということです。人間にはなかなか分からないけれど、神は確かに心をご覧になります。

サウル王が神の前に罪を犯しました。新しい王を立てなければならないということで、サムエルはエッサイの息子たちを呼んで来ます。7人の息子たちが順に連れられて来るわけです。そして、エリアブを見たときに、サムエルは彼こそが主の前に油を注がれる者だと思いました。そのときに主のことばが預言者サムエルにありました。Iサムエル16:6-7「:6 彼らが来たとき、サムエルはエリアブを見て、「確かに、【主】の前で油をそそがれる者だ」と思った。:7 しかし【主】はサムエルに仰せられた。「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、【主】は心を見る。」、みことばが私たちに教えることは、私たちが造られた真の神は私たち人間の心をすべてご覧になっておられるということです。そういう存在です。神はすべてのことの真相をご存じなのです。

ですから、カインとアベルがささげ物を持って来たときに、そのささげ物を見て、二人の心を見られたのです。神を騙す人はいません。でも、人間ならそれは可能です。教会の中にいろいろな人が入り込んで来る。いかにも霊的であるかのように入り込んで来る。でも、実はそうでないかも知れません。この偽りの教師たちは非常に霊的な者として教会の中に入り込んで来たのです。そして、正しくない偽りの教えで人々を惑わしたのです。大変危険だということを見つけた。では、私たちが神でない以上、どのようにして彼らを見分けることができるのでしょうか？いくつかの方法があります。

実は、このカインとアベルの出来事がそのことを教えてくれます。まず、その人が本物かどうかは、その人がみことばを実践しているかどうか、神のみことばに服従しているかどうかによって見分けることができます。この二人を見たときに、アベルは神のみことばに従いました。でも、カインはそうではなかった。そのことは後でも繰り返して見ていきますが、そのことから、アベルは救いに与っていたけれど、カインはそうではなかったと言えます。神のことばに従っていきたいという願いをもっているのは救いに与ったからです。「神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」(ヨハネ8:47)。

ですから、救われているかいないかは、神が言われることを聞いているかもしれないが、それに従おうとしているかどうかです。もちろん、私たちの従順は不完全です。失敗だらけです。でも、神によって救われた者たちの心には神のことばに従っていきたいという願いがあります。そのことによって見分けることができます。

ヨハネはカインが救われていなかった理由として、彼の悪い行いを挙げています。Iヨハネ3:12に「カインのようであってははいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったからです。」とこのように書かれています。「彼は悪い者から出た者で、」とあります。「悪い者」とは「サタン」です。ヨハネはカインの主人がだれであったのか？サタンであったということを明らかにしています。神が主人でない人の主人はサタンです。どちらかでしょうかありません。神が主人なのか？サタンが主人なのか？カインはサタンに仕える者でした。だから、彼がしたことは神ではなくサタンを喜ばせることでした。「兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、…」、神が喜ばれないことを彼は選択したのです。

こうして見ると、人が神のみことばに従っているのかどうか？神のみことばを実践しているのかどうか？それとも、それに逆らっているのかどうか？そのことにその人が本物かどうかをある程度見分けることができます。

2) 神が目を留められるのはその人の行動の動機

いったい何のためにそのことをしているのか？ということです。ヘブル11:4を見てください。「信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかしして下さったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。」、著者はアベルは救いに与っていたけれどカインはそうではなかったと教えています。問題は「動機」だと言います。アベルは感謝の思いをもってささげ物を持って来ました。自分の救い、罪の赦しかもしれませんが、神への感謝の思いをもって彼はささげ物を持って来たのです。でも、カインはそうではなかった。彼は自分の働きを誇示しようとしたのかもかもしれません。ですから、カインは自分のささげ物が認められなかったこと、そして、弟のささげ物が認められたことに怒りを覚えています。そして、その怒りが憎しみへと変わり、殺人へとエスカレートします。

彼は神を喜ばせようとしてやって来たのではなく、自分の思うようにならなかつたゆえに、自分が考

えているように扱ってくれなかったゆえに、彼は不満を覚え妬みを覚え、そして、怒りから殺人へとエスカレートしていくのです。何のために、どのような思いをもってやっているのか？です。

もし、人に見せびらかせるために働きをしているなら考えなければいけません。神を喜ばせるためにやっているのかどうか…と。このカインとアベルのときを見ると私たちが教えられます。どのような思いをもって彼らはささげ物を持って来たのか？ということ。

3) みことばに立っているのか、それとも自分の考えに立っているのか

アベルとカインの行動だけを見た時に、カインも信仰的な人だと思う人がきつといるでしょう。なぜなら、二人ともささげ物をもって来たからです。でも、私たちが注意しなければいけないのは、確かに二人ともささげ物を主の前に持って来るのですが、カインの信仰というのは主の教えに基づいたものではなかったということです。それは自分の考えに基づいたものでした。

先ほど見たヘブル書 11章を見ると、このささげ物が何を意味したのかが書かれています。11:4に「…そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。」とありました。つまり、義人であったアベルがささげた物は確かに彼が義人であることを証明したのです。ささげ物によってアベルが義人になったわけではありません。ささげ物は彼が救われていることを証明したのです。ですから、著者はこの二人のささげ物は種類が違ったのではなく、彼らの心も彼らの信仰も違ったと、そのことを強調するのです。そのことから、カインは救いに与っていなかったと言うのです。

皆さん、カインのような人は今もいます。どんな人か？この人は自分の考えに基づいて何かを一生懸命するのです。きつとこうすれば神が喜ぶに違いない、きつとこうすれば天国に行けるに違いないと。自分で考えて一生懸命そのために努力するのです。でも、残念ながらその努力は全く価値のないものです。なぜなら、それは自分の考えに基づいた信仰であって神の教えに基づいたものではないからです。

いろいろな人と話をしている皆さんもお気づきになると思います。「なぜ、あなたはそれを真実だと信じているのですか？なぜ、私たちの愛する先祖たちを敬うことによって、そのような行為によって天国に行けると言えるのですか？」、「そのように聞いて来たから…」と言われます。問題は、そのように神が言われているのかどうかです。ですから、神ではなくて人間の考えに基づいた信仰心の熱い人、宗教的な人、そんな人はいっぱいいます。まさに、カインもそういう人物でした。一見すると、彼はささげ物をもって来て熱心かと思えるかもしれない。自分が収穫したものの中からささげ物を持って来たのです。でも残念ながら、彼の信仰の歩みは神の教えに基づいたものではなかったのです。自分の考えによるものであったということです。

この二人のことを考える時に大変ショッキングなことは、この二人の両親はだれですか？アダムとエバでしょう。この二人と彼らはともに時間を過ごしたのです。エデンの園で生活をしたことのあるのはアダムとエバだけではないですか？そこでの生活がどんなにすばらしくどんな祝福を経験したのか、彼らは実際にそれを体験していたのです。エデンの園において創造主なる真の神と個人的な特別な交わりをもって来たこと、それがどんなにすばらしいものか、彼らはそれを体験した者としてそれを間違いなく語るべきでしたし、語って来たはずですが。

そして同時に、罪を犯すことによって失った祝福や特権もあります。この二つを比較することのできたのはこの人たちだけです。罪を犯す前に持っていた本当の喜びや本当の満足、そして、罪によってもたらされた様々な痛みや悲しみ、それらのことを直接聞いていたにもかかわらず、カインはこの神を拒むのです。大変悲しいことです。でも実は、そういう人が今もいるのです。クリスチャンホームに生まれ育ったかもしれない。幼いころからずっと神のことを聞いているかもしれない。救いのすばらしさを聞いて来たかもしれない。神のすばらしさを聞いて来たかもしれない。でも、それでいて今も主を拒んでいる人がいるのです。カインと同じように…。悲しいことです。弟アベルは救いを受け入れ、そして、罪の赦しをいただきました。しかし、兄のカインはそれを拒むという選択をし、そして、神に逆らい続けるその歩みを継続しました。

ユダは、確かに、この偽教師たちの歩みはカインが歩んだようであると言いました。彼らは自分自身が神の赦しを拒み続けるだけでなく、誤った教えをもって他の人たちが救いに与ることを妨げていると言います。まさに、そのような人生を生きているなら、それはのろわれた人生であり、そして、必ず、その人たちはのろわれた永遠を自分の身に招くと言うのです。

そう考えると皆さん、そんな歩みをしているのは偽りの教師たちだけではありません。そのような人たちはこの世に溢れています。願わくは、あなたがそんな歩みをしている人ではないことです。もし、あなたが彼らと同じように神に逆らい続けているなら、あなたに神の祝福はない、あなたにあるのは神ののろいのです。なぜなら、あなたはその祝福を自分の意志をもって拒み続けているからです。もし、神の救いを拒んでいる人がいるなら、少し考えてみてください。主イエス・キリストがあなたの罪を赦すためにこの世に来てくださった。あなたを造られた創造主なる神があなたの身代わりとなってあなたの

罪のさばきを受けてくださった。そのいのちをもってあなたに完全な救いを備えてくださった。でも、あなたのしていることはその神を軽蔑しているのです。その神が為してくださった救いのみわざをあなたは蔑んでいるのです。私には必要ないと。どれ程大きな罪をあなたは今犯しているのか、そのことに気付かなければいけません。悲しいことですが、カインはそのように生きた人物だったのです。

2. バラム

次の人物は「バラム」です。11節に「利益のためにバラムの迷いに陥り、」とあります。このバラムに関してペテロはペテロの手紙第二でこのような説明を加えています。2：15「彼らは正しい道を捨ててさまよっています。不義の報酬を愛したベオルの子バラムの道に従ったのです。」と。バラムがどんな歩みしたのか？何回かこのバラムについて私たちも学びましたが、もう一度考えてみましょう。

モアブの王バラクは、イスラエルがエモリ人たちに勝利したことを聞きました。ちょうど、死海を中心にその東側にこのモアブがあります。その国の王はバラクでした。イスラエルの民が南から北上して来た時に、イスラエルはエモリ人たちに対して圧倒的な勝利を得ました。そのことをこのモアブの王バラクは耳にするのです。次は自分たちがやられてしまうということで、バラクが考えたことは占い師バラムを呼んで来よう、そして、このバラムに自分たちを祝福させてイスラエルをのろわせようと、そのように考えるのです。このことは民数記22章1節から書かれています。バラクはバラムの所に使いを送って「どうか、今私たちの所に来てください」とそのように願うのです。

バラムは、この申し出を聞いた時に神にみこころを問います。22：9からそのことが書かれています。「9 神はバラムのところに来て言われた。「あなたといっしょにいるこの者たちは何者か。」10 バラムは神に申し上げた。「モアブの王ツィポルの子バラクが、私のところに使いをよこしました。11 『今ここに、エジプトから出て来た民がいて、地の面をおおっている。いま来て、私のためにこの民をのろってくれ。そうしたら、たぶん私は彼らと戦って、追い出すことができよう。』」、そして、12節「神はバラムに言われた。「あなたは彼らといっしょに行ってはならない。またその民をのろってもいけない。その民は祝福されているからだ。」と、これが神からの答えでした。この返事を聞いたバラクはあきらめないで、これまでよりも位の高い者たちを大勢バラムのもとに送ります。15節「バラクはもう一度、前の者より大ぜいの、しかも位の高いつかさたちを遣わした。」、そして、バラムに私たちといっしょに来て欲しい、そして、イスラエルをのろって欲しいと、このようにもう一度申し出るのです。

それに対して、18、19節を見ると、また再びバラムは神に尋ねるのです。「18 しかしバラムはバラクの家臣たちに答えて言った。…私は私の神、【主】のことばにそむいて、事の大小にかかわらず、何もすることはできません。19 それであなたがたもまた、今晚ここにとどまりなさい。【主】が私に何かほかのことをお告げになるかどうか確かめましょう。」、不思議に思うのはもう答えは出ていたのです。「行ってはいけません。イスラエルの民をのろってはいけません」という神の答えは出ていたのです。確かに、バラムはその通りに従ったのです。それにも関わらず、なぜ彼は「もしかすると神様はほかのことをお告げになるかもしれません。だから、ここに泊まっていなさい。」と言ったのでしょうか？その理由ははっきりしています。バラムはバラクからの報酬に心が動かされたのです。それが問題だったのです。18節に「たといバラクが私に銀や金の満ちた彼の家をくれても、」とあります。そこには金や銀があることを知っているのです。「たといそれをくれても、」と確かにこのように言っているのですが、バラム自身はそこに誘惑を覚えるのです。それが証拠に、その後を見てください。21節「朝になると、バラムは起きて、彼のろばに鞍をつけ、モアブのつかさたちといっしょに出かけた。」、というのは、20節に「その夜、神はバラムのところに来て、彼に言われた。「この者たちがあなたを招きに来たのなら、立って彼らとともに行け。だが、あなたはただ、わたしがあなたに告げることだけを行え。」と、「彼らといっしょに行きなさい」と神がバラムに告げています。だから、バラムは「モアブのつかさたちといっしょに出かけた。」と言ったのです。この後何が起こるか？ろばが人間のことばを語ります。有り得ないことが確かに起こるのです。

このことによって神が何を為さろうとしたか？神はバラムの罪をろばがものを言うという方法で示されるのです。先に20節で神が「行け」と言われました。なぜ、神がそんなことを言ったか？バラムはもうすでに自分の心の中でバラクの所に行きたいと決めているからです。私たちもすることです。私たちは自分のやりたいことをやりたいのです。それが神のみこころであって欲しいと願うのです。だから、たとえ神が「NO」と言っても、それをやりたければ私たちはやろうとします。ここで起こったことは、バラムは神のメッセージ、神の答えを知っているのに彼は行きたかったのです。そこには富があるからです。しかも、バラクは言います。17節「私はあなたを手厚くもてなします。また、あなたが私に言いつけられることは何でもします。どうぞ来て、私のためにこの民をのろってください。』」と。バラムは欲しかったのです。その富が。だから、彼は心の中で決めていたのです、「私は行きたい」と。そこで神が言われたことは「勝手に行きなさい」でした。でも、それは神のみこころではなかったのです。そして、ろばがものを言うことによってバラムの罪が明らかにされたのです。

Ⅱペテロ2：16をご覧ください。「しかし、バラムは自分の罪をとがめられました。ものを言うことのないろばが、人間の声でものを言い、この預言者の気違いざたをはばんだのです。」、第二版ではこのようなことばが使われていますが、第3版では「狂った振舞いを」と書かれています。「とがめられた」は「叱責された」ということです。「あなたは間違っている」と叱責されたのです。そして、「とがめられた」という名詞が16節の初めに記されているのは、これが強調されているからです。神はこのバラム自身の心の中にある思いが神の前に正しくないことを明らかにしたのです。

バラムはどんな思いを持っていたのか？Ⅱペテロ2：15が教えていました。「彼らは正しい道を捨ててさまよっています。不義の報酬を愛したベオルの子バラムの道に従ったのです。」と、彼は「正しい道を捨てた」のです。そして、「不義の報酬を愛した」のです。この二つの罪がバラムの罪です。

「不義の報酬を愛したこと」：このことは先に見ました。バラムは神よりも金や銀、この世の富を優先したのです。彼が愛したのは神よりもこの世の宝でした。この世を愛したのです。それが「不義の報酬を愛した」と記されている意味です。

「正しい道を捨てたこと」：もう一つの罪はこれです。この「正しい道」というのは「まっすぐな道」のことです。言い方を変えるなら、「神のみことばに記されている道」です。神の前に正しい道です。この「捨てた」というのは「その正しい道を彼は意図的に捨てた」ということです。そして、その結果、彼は間違った道をさまよっていると、まさに、迷子になった子のようにさまよっている様子です。

バラムは富に目がくらんでそれを神よりも愛したのです。そして、正しい道から自分の意志でもってそこから離れたのです。ここだけ見ていると何も害がないかのように思うのです。でも、実は、このバラムは大変な害をイスラエルにもたらしたのです。そのことが記されているのが黙示録2章です。ペルガモの教会に対するメッセージの中に、2：14「しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行わせた。」と。ヨハネが言うように、教会の中にこのバラムの教えを奉じている者たちがいたのです。では、バラムはどんなことを教えていたのか？バラムはこのモアブの王であったバラクにあることを教えるのです。そして、イスラエルの人々の前につまずきの石を置いたと言うのです。この「つまずきの石」ということばは「わな」という意味があります。つまり、バラムはバラクに働いてイスラエルの人々が罪を犯すための「わな」をしかけるように教えたのです。どんな「わな」だったのか？（1）偶像の神にささげた物を食べるように、（2）不品行を行うように、これが「わな」でした。

バラムはこうしてバラクに働いてイスラエルの人々を罪へと誘惑し、その結果、イスラエルは祝福を失ったのです。バラクが望んだとおりに事が運んだのです。この結果、2万4千人の人々がいのちを落とすのです。このことは民数記31：16や25：1-3、25：9にも書かれています。「31:16 ああ、この女たちはバラムの事件のおり、ベオルの事件に関連してイスラエル人をそそのかして、【主】に対する不実を行わせた。それで神罰が【主】の会衆の上を下ったのだ。」、「25:1 イスラエルはシティムにとどまっていたが、民はモアブの娘たちと、みだらなことをし始めた。:2 娘たちは、自分たちの神々にいけにえをささげるのに、民を招いたので、民は食し、娘たちの神々を拝んだ。:3 こうしてイスラエルは、バアル・ペオルを慕うようになったので、【主】の怒りはイスラエルに対して燃え上がった。」、「25:9 この神罰で死んだ者は、二万四千人であった。」。

このバラム、彼は神よりも富を愛しました。神よりもお金を愛した。そして、彼はバラクを知ることによって、このイスラエルの人々が罪を犯すようにと働いていったのです。これがバラムの罪でした。自分だけが間違った道に歩むのではない、人々に悪い影響を及ぼす、そのような働きをしたわけです。神よりもそれ以外のものを愛するということの恐ろしさ、また、その愚かさを教えます。

3. コラ

三人目は「コラ」です。11節には「…コラのようにそむいて滅びました。」と書かれています。コラに関しては出エジプト記6章に記されています。6：16「レビの子の家系の名は、次のとおりである。ゲルション、ケハテ、メラリ。レビの一生は百三十七年であった。」、18-21節「:18 ケハテの子はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルである。ケハテの一生は百三十三年であった。:19 メラリの子はマフリとムシである。これらはレビ人の諸氏族の家系である。:20 アムラムは父の妹ヨケベデを妻にめとり、彼女はアロンとモーセを産んだ。アムラムの一生は百三十七年であった。:21 イツハルの子はコラ、ネフェグ、ジクリである。」と、少しややこしい箇所ですが、大切なことを我々に教えてくれています。つまり、モーセとアロンの父は、アムラムと書かれています。コラの父はイツハルとあります。モーセとアロンの父とコラの父は兄弟なのです。「コラ」はモーセとアロンの従兄弟だったのです。また、彼らはレビ人でした。レビ人というのは幕屋において大きな大切な務めが与えられていました。幕屋は移動して行きます。そのときにそれ

を片付けたり運んだり、また、それを造ったり建てたりとそのすべてのことはこのレビ人がするのです。そのことは民数記 1 章に書かれています。

コラの問題は何だったのか？彼はレビ人です。幕屋に関する大変重要な責任を得ていたのです。でも、彼はそれに満足しなかったのです。彼は自分が祭司にならないことに不満を覚えるのです。民数記 16 章にこんなやりとりがあります。それはモーセとコラのやりとりです。16：8－11「：8 モーセはさらにコラに言った。「レビの子たちよ。よく聞きなさい。：9 イスラエルの神が、あなたがたを、イスラエルの会衆から分けて、【主】の幕屋の奉仕をするために、また会衆の前に立って彼らに仕えるために、みもとに近づけてくださったのだ。あなたがたには、これに不足があるのか。」、モーセは言います。あなたがたは神からすばらしい務めをいただいた。それに不足があるのか？と。「：10 こうしてあなたとあなたの同族であるレビ族全部を、あなたといっしょに近づけてくださったのだ。それなのに、あなたがたは祭司の職まで要求するのか。：11 それだから、あなたとあなたの仲間のすべては、一つになって【主】に逆らっているのだ。アロンが何だからといって、彼に対して不平を言うのか。」、コラは自分が祭司に選ばれなかったことに対して腹を立て、そして、民数記 16：1－2「：1 レビの子ケハテの子であるイツハルの子コラは、ルベンの子孫であるエリアブの子ダタンとアビラム、およびペレテの子オンと共謀して、：2 会衆の上に立つ人たちで、会合で選び出された名のある者たち二百五十人のイスラエル人とともに、モーセに立ち向かった。」。

ご存じのように、祭司職はアロンとその家系に与えられた務めでした。でも、コラは「なぜ、従兄弟のアロンが、モーセがその働きをしているのに私にはその働きができないのか？」と不満を覚えたのです。そこでコラは公の場で 16：3「彼らは集まって、モーセとアロンとに逆らい、彼らに言った。「あなたがたは分を越えている。全会衆残らず聖なるものであって、【主】がそのうちにおられるのに、なぜ、あなたがたは、【主】の集会の上に立つのか。」と、いったいだれがそんな権威を与えたのかと言って、神がお立てになったこのモーセやアロンに逆らうのです。

このコラに起こったのは何か？彼には不満がありました。自分が祭司に選ばれないことへの不満です。その不満は怒りを生み出したのです。そして、その怒りは問題行動を生み出していくのです。これはコラだけの問題ではありません。どの時代でも私たち人間が気を付けなければいけないことです。

コラの問題は、自分が思うように、自分が祭司になれば満足できたのです。そう思っているのです。つまり、自分の欲しい物を手にすれば満足できるのです。そのような人は世の中にあふれています。本当の満足は神に従うときに与えられるものです。神のみこころに従うときに、神がその人に与えてくれるのです。ですから、神に逆らっている人はどんなに自分の欲しい物を手に得たとしても本当の満足を得ることはないのです。でも、神に従っている人は何がなくても喜んでいられるのです。感謝しているのです。満足は神から来るからです。

このコラは不満や妬みを持っていました。これは罪です。そして、どんな小さな罪でもそれを放っておくなら大きな問題を起すこととなります。この人たちは神によってさばかれました（民数記 16：31－33「：31 モーセがこれらのことばをみな言い終わるや、彼らの下の地面が割れた。：32 地はその口をあけて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての持ち物とをのみこんだ。：33 彼らとすべて彼らに属する者は、生きながら、よみに下り、地は彼らを包んでしまい、彼らは集会の中から滅び去った。」）。このようなさばきが起こったのですが、16：41から見てください。「：41 その翌日、イスラエル人の全会衆は、モーセとアロンに向かってつぶやいて言った。「あなたがたは【主】の民を殺した。」：42 会衆が集まってモーセとアロンに逆らったとき、ふたりが会見の天幕のほうを振り向くと、見よ、雲がそれをおおい、【主】の栄光が現れた」、会衆はモーセとアロンにつぶやくのです。「あなたがたは【主】の民を殺した。」と。なぜ、こんなことを言ったのか？彼らはさばかれた人たちに対して同情心をもったからです。可哀想だと…。

この後どうなったのか？49－50節「：49 コラの事件で死んだ者とは別に、この神罰で死んだ者は、一万四千七百人になった。：50 こうして、アロンは会見の天幕の入口のモーセのところへ帰った。神罰はやんだ。」、さばかれた者たちに同情した者たち一万四千七百人が神のさばきを受けたのです。このコラの事件は私たちに何を教えてくれるのでしょうか？コラは神のみこころに従うよりも自分の考えを優先するのです。自分の願っていることが叶えられないからと、コラはこのように神の前に罪を犯しました。そして、それによってコラだけでなく、多くの人たちが同じようにこのさばきに服するわけです。

この三人のことがユダによって記されています。まさに、偽教師たちは彼らと同じである、同じ道を歩んでいると言います。この三人をもう一度振り返ってみると共通していることがあります。カインもバラムもコラもすべてに共通しているのは、彼らの中心は「自分」だということです。カインは神の教えよりも自分の考えに従ったのです。バラムは神を愛するよりもこの世を愛したのです。コラは神のみこころよりも自分の願いを優先したのです。このように歴史上の三人の人物を引き合いに出して、ユダは彼らはこうして神のさばきを受けた、そして、今、偽教師たちは同じ道を歩んでいる、だから、早く

悔い改めなさい。あなたたちも正しい歩みにきちんと従うように、惑わされないように注意しなさいと、そこにユダのこの兄弟たちを思うその思いを見て取ることができます。

今日、私たちが見て来たのは三人の滅んだ者たちのことです。皆さん、彼らは悲しいことに、神に従うことを選択しませんでした。私たちは神に従うために造られたのです。私たちは神を愛する者として造り変えられたのです。そして、私たちが神のみこころに従うときに神の栄光が現されていくのです。そのためにイエス・キリストがご自分のいのちを犠牲にして救いをくださった。そして、あなたを救いへと導いてくださった。それはこのように生きるためにです。この神のすばらしさを証するためにです。

こうして生きるのは私たちクリスチャンだと。悲しいことに、そうでない者たちがたくさんいるのです。私たち信仰者が救いに与った喜びをもっと証することです。救われたことのすばらしさを証することです。その責任は私たちにあります。そして、願わくは、一人でも多くの人たちがこのすばらしい救いに与って行くように。ぜひ、覚えてください。この神に背を向けている人たちは今永遠の滅び、のろいの道を生きているということを…。愛をもって警告しなければいけない。その道は滅びの道であることを。ぜひ、そのことを思いながら、この一週間、主の御力をいただきながら主に従い続けていきましょう。